

正 誤 表

修道商学第44巻第1号・柏木信一論文『近年の消費者契約問題に関する動向 一消費者相談データをもとに一』の196ページの表4に訂正があります。

(誤)

- ⑥法律上義務のない者（借主本人，保証人，あるいは彼らの相続について単純承認した相続人など）に対して支払請求をしたり，必要以上に取立への協力を要求すること。

↓

(正)

- ⑥法律上義務のない者（借主本人，保証人，あるいは彼らの相続について単純承認した相続人などでない者）に対して支払請求をしたり，必要以上に取立への協力を要求すること。

ゆえに，表4は正しくは次のようになります。

表4 金融庁事務局ガイドラインに基づく取立規制
(金融庁事務局ガイドラインに基づき，筆者作成。)

債務者（ここでは借主），保証人に対して行ってはいけない行為

- ①暴力的な態度を取ること。
 - ②大声を上げたり，乱暴な言葉を使ったりすること。
 - ③多人数で押しかけること
 - ④午後9時から午前8時まで，その他不適当な時間帯に正当な理由なく直接訪問したり，電話をかけたり，電報を送ること。
 - ⑤反復継続して，電話連絡もしくは電報を送達または訪問すること。
 - ⑥法律上義務のない者（借主本人，保証人，あるいは彼らの相続について単純承認した相続人などでない者）に対して支払請求をしたり，必要以上に取立への協力を要求すること。
 - ⑦張り紙，落書き，その他いかなる手段と問わず，債務者の借りに関する事実，その他プライバシーに関する事実をあからさまにすること。
 - ⑧勤務先を訪問して，債務者，保証人を困惑させたり，不利益を被らせたりすること。
 - ⑨他の貸金業者からの借りに関する事実やクレジットカードの使用等による借金弁済を要求すること。
 - ⑩債務処理に関する権限を弁護士に委任した旨の通知，又は調停，破産その他裁判手続きを取ったことの通知を受けた後に，業者が正当な理由なく支払請求をすること。
 - ⑪その他正当と認められない方法で請求をしたり取立をすること。
-

読者の皆様に大変ご迷惑をおかけ致しました。心よりお詫び申し上げます。

筆者